

青少年国際平和未来会議2022

International Youth Conference for Peace in the Future 2022

広島市の青少年7名は、2022年9月～10月、フィリピン・モンテルパ市主催の青少年国際平和未来会議2022（オンライン）に広島代表として参加しました。

その準備として、被爆の実相や国際理解について、基本的な知識を学び、また、様々な立場にある方々と交流することを通して世界恒久平和を希求する心を育て、本会議において世界各都市の青少年に何を発信していくのか考えました。



日程	内容
7月24日～ 9月11日（6回）	事前研修 ・平和記念資料館見学 ・被爆体験講話 ・広島平和記念資料館館長講話 ・プレゼンテーション準備 など
8月6日	平和記念式典参列
9月18日～ 10月16日（5回）	オンライン会議 （モンテルパ市主催）
11月1日、13日	事後研修
11月20日	活動報告会（国際フェスタ）

●青少年国際平和未来会議とは…

広島市の姉妹・友好都市等世界の国々の青少年と本市の青少年が互いに世界平和について考え、意見を交換し合うことにより、友情と相互理解を深める。また、会議の参加者が、広く世界の国々の次代を担う青少年に対し、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を願う「ヒロシマの心」を伝え、世界平和への意識を高めていくことを通して、グローバル人材として活躍していくことを目指す。

《これまでの歩み》

被爆60周年を迎えて2005年（平成17年）にこれまで行っていたハノーバー市との青少年交流を礎として、第1回青少年国際平和未来会議（IYCPF）が広島市で開催されました。それ以降広島市と姉妹・友好都市等でおおよそ交互に開催し、今年で18回目を迎えました。

1. 事前研修

参加者は、事前研修において、被爆の実相や国際理解について知識を深めるとともに、オンライン会議に向けた発表準備等に取り組みました。それぞれが主体的に事前研修に臨み、青少年国際平和未来会議を自らの手で創り上げるのだという意識を互いに高め合うことができました。

●被爆体験講話

参加者は、被爆体験講話を聞いて、被爆者一人一人に起こった被爆体験と平和への思いについて考えを深めました。

【感想】80年近く前、長らく戦争が行われていたものの、今と同じように当たり前の日常があったはず。現に、ウクライナの事が起きている今でも、私たちは当たり前のようにご飯を食べて、寝て、お風呂に入り、友達と話したりしています。しかし、そのように人々が営んできた日常がたった一発の原子爆弾で奪われたのだと考えると、想像を絶する恐ろしさだったと思います。（中略）

原爆の恐ろしいことは放射能、高温、爆風の3つですが、私は何よりも恐ろしいと感じたことは、一生消えぬ傷が体にも心にもできることだと思います。体にできたケロイド、不自由になった目と耳、そして放射能の影響で発症してしまう病気、失ってしまった家族、すべて記憶の中に残り続けることは、何よりもつらいことだと思うのです。

戦争続きの70年余りと、平和の70年余り、どちらを選びたいかと尋ねられ、当たり前のようには後者を選びました。それは皆同じだと思います。今まで平和だったのは先代の人たちが平和につながる一歩を踏み出すことを選択してくれたからです。

しかし、戦争が起こった時代は過去になりつつあります。だからこそ、これからを作っていく私たちがまずは一歩を踏み出し、平和への道を選択していこうと思いました。



●広島平和記念資料館館長 講話「記憶の継承」

広島平和記念資料館見学の後、資料館館長の講話を聴講し、知識を深めるとともに、これを継承する決意を新たにしました。

【感想】若い世代である自分たちがこれから何をすべきなのか、青少年国際平和未来会議でのこれからのビジョンをより詳細に突き詰めていく足がかりになりました。



●プレゼンテーション準備

オンライン会議に向けて参加者は、リーダー・副リーダーを中心に話し合いを重ね、プレゼンテーションの構成や役割分担を考え、それぞれが与えられ役割を果たすために、意欲的に準備に取り組みました。



広島市プレゼンテーション 準備



プレゼン用動画の撮影風景



原爆詩朗読「人よ」

2. 平和記念式典参列

参加者は、広島市青少年を代表して平和記念式典に参列し、広島の若者として、世界の青少年に向けて「ヒロシマの心」を伝えることへの意識を高めました。



【感想】今回人生で初めて平和記念式典に参列させていただきました。まず、人が多くて雰囲気のにまれそうになったというのが第一印象です。セレモニーが始まり、平和宣言、子ども代表の平和への誓い、来賓の方々のあいさつを聞いていくにつれて、自分の言葉で伝えていく、主体的に行動して、メッセージを伝えていくことの大切さを再確認しました。これからの活動が11月まで続きますが、その中でも自分から積極的に言葉を発して、行動していくことを心がけたい、そういうことを再確認するいい機会となりました。

3. 海外都市青少年とオンライン会議

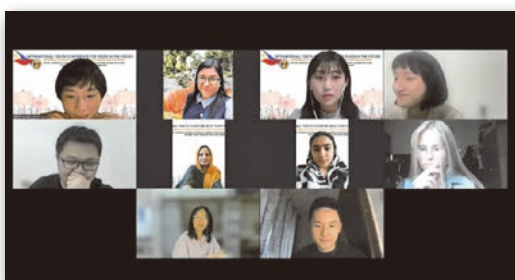
参加者は、2022年9月18日から10月16日の毎週日曜日に行われたモンテルパ市が主催する青少年国際平和未来会議2022（オンライン）に参加しました。

6か国7都市の青少年総勢46名が集まり、平和文化の振興、環境問題などについて講義を受け、それらのテーマについてグループごとに意見交換を行い、その成果をSNS等で世界に発信しました。

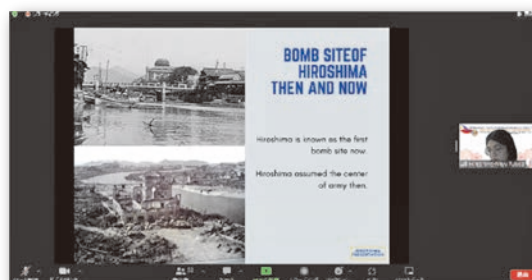
また、各都市の紹介、文化・習慣等について発表するなど、異文化交流を行いました。

広島市の参加者は、慰霊碑紹介、原爆詩朗読や平和記念式典に参列した感想等についての動画を活用し、被爆の実相や平和への取組を紹介するとともに、文化紹介や平和への誓いについて動画を制作し、発表しました。

【参加都市】ボルゴグラード市、ハノーバー市、成都市、モンテルパ市、サンクトペテルブルグ市、テヘラン市



グループディスカッション



広島市からの発表



グループによるSNS発信

4. 参加者の感想

青少年国際平和未来会議議長は全プログラムに参加することを通じて、平和活動に貢献した広島市の参加者に対し、今後の活動を期待して「ヒロシマ平和未来大使委嘱状 兼 活動証明書」を交付しました。参加者はお互いに本事業に参加した感想を述べ活動を終えました。



【感想1】青少年国際平和未来会議の活動において特に印象的だったのは、やはり海外の方との交流です。初めのうちは英語は全く聞き取れないし、話しかけられているのに答えることができないという不安と申し訳なさで怖くてたまりませんでした。しかし、次第に恐怖はなくなっていたし、また同じグループのメンバーと話すのが楽しみになっていました。それは、海外の人といえど同じ人間なのだと気づいたからです。ごく当然のことですが、コミュニケーションをとるうちに、相手も同じように感情があり、自分と何も変わらない人間だと強く感じるようになりました。

実際に参加国で悲惨な事件が起こったとき、今日もどこかで、争いによって人が死んでいること、日常が奪われていることが身近に感じられて怖くなりました。

平和に対して高尚な考えは必要ないのだと思います。争いがあるより楽しいほうがいい。明日も自分の好きなことがしたい。泣くより笑いたい。平和とはそんな当たり前ですが、それを奪われた人がたくさんいます。だからこそ、私は当たり前前に感謝し、平和の大切さを伝えていきたいと思います。

【感想2】青少年国際未来平和会議に参加して、まずは平和に向けて何かしたい人がこんなにたくさん世界にいるとわかったことがとても嬉しかったです。私の学校など身近な人は平和教育に興味がある人が少なく、私が何かしたいと感じても、何をすればいいか分からないし、もし平和に関して行動を起こしたとしても、受け入れられないのではないかと躊躇していました。また、実際に平和について発信していくことに興味を持っていると言ったとき、からかわれたこともありました。しかし、世界には日本でさえ詳しく知らない人が多い原爆のことを学ぼうとしている人がいたり、何か行動をしなくてはならないと感じている人がいたり、同じ志を持っていると知り、とても心強くなりました。

それから、自分の英語力の足りなさを強く実感しました。私はグループでの意見交換になったとき、会話の話題についていくことで精一杯でほとんど話すことができませんでした。しかし、言語が違ってなんとか伝えることはできるとも感じました。文法をきちんと組み立てることも重要ですが、一番大切なことは伝えようとする意思だと思いました。

5回という少ない回数でしたが、自分がやりたいことへの道筋が見えたり、何が足りないか知ることができた、実りあるものになりました。貴重な経験をありがとうございました。



5. ヒロシマアピール

参加者は、事前研修やオンライン会議を通して、平和とは何か、平和な世界を実現するために、広島の若者として何ができるかを考えてきました。活動終了後、参加者は「平和文化を築くために、私たち若い世代にできること」というテーマで、それぞれのヒロシマアピールを作成しました。

●私たちは、人権問題や環境問題、戦争に至るまで様々な問題に直面しています。特に昨今の情勢は不安定であり、核兵器使用の脅威も高まっています。そのような問題に対して、若者一人が状況を好転させることは現実的ではありません。したがって、私たちは平和文化を築く、すなわち社会単位での価値観の転換を図る必要に迫られています。その際、従来のように国や年齢が規定されていれば、国家間、あるいは世代間の確執や偏見を取り除くことは容易ではありません。そこで、オンラインを通じて、今までは繋がりえなかった人たちとの交流を促進することが重要になるでしょう。

青少年国際平和未来会議はその最たる例と言えます。会議では発言や議論におけるコミュニケーションの課題が散見されたものの、参加者に対して、「同じチームの人間」とであるという内集団意識を持つことで、認知バイアスの影響を抑制することができました。しかし、この度の未来会議は一時的なプロジェクトに過ぎず、持続性に難点があります。継続的に活動するコミュニティへ昇華するためには、若い世代による自発的な働きかけが必要不可欠になるでしょう。

以上より、平和文化を築くために、私たち若い世代は、オンラインを通じた新たなコミュニティの構築と運営、コミュニティ間の連携に注力し、従来の枠組みを超えた持続的な社会集団を形成していく必要があると考えます。

どのような問題であれ、距離が遠いほど問題の本質は歪みやすくなります。人権問題であれば多数派と少数派との間に心理的な距離があり、環境問題であれば未来と現在との間に時間的な距離があり、戦争であれば自国と他国との間に空間的な距離があります。問題解決に大きく貢献する一手も大事ですが、私たち若い世代は“距離”を縮めるため、一歩ずつ、等身大の歩幅で進んでいくことが肝要です。



●私は、平和文化を築くために今私たちのような若い世代にできることは積極的に交流を持つことであると考えます。なぜなら、私たちのような若い世代には何か世界規模の大きな活動を起こすことは難しいかもしれませんが、私たちのような世代だからこそ、いろいろな手段を利用して柔軟に国境を超えたつながりを作ることができるのではないかと考えるからです。また、若い世代が国境を超えた交流をすることは、その世代が国を動かしたりできるような時代が来たときに偏った概念に囚われることなく平和的な交流を大きな規模で実現することができるのではないかと考えます。



さらに、私たちのような若い世代の人々にはもっと多くのことを学ぶことができると思います。そして、このことはもっと積極的にしていくべきだと考えます。なぜなら、学ぶことにより私たちは異文化をより理解することができる、問題解決のためのアイデアを考えることができ、より平和な文化を築くことができます。そのため、学べる時間と環境がある若い世代の私たちには学ぶことが必要であると考えます。

●若者世代は、戦争、核兵器使用の可能性、異常気象、人権問題など、様々な問題を抱えた世界で生活しており、次世代の担い手として、そのような諸問題の解決を期待されている存在でもあります。

今日解決が重要視されている国際問題は、人々の日常にある平和や心の平穏を奪う根本的な種です。平和文化を築くために、若者世代にできることは、自分自身の平和とは何か考えることと、国際的な課題の成り行きを傍観せず、若者世代ならではの能力を活かし、働きかけを行うことではないでしょうか。またそのためには、国際問題は若者個人に影響を及ぼすこと、一方で個人の行動は周囲に影響を与え得ることを深く認知する必要があると思います。

青少年国際平和未来会議2022では、国際情勢に影響を受けている参加者もあり、国際問題が他人事ではないことを感じさせられました。しかし、私は青少年国際平和未来会議を通じて、ひとりではごく僅かな影響力も、大人数で行動を起こす事で大きくなり、周囲に影響を与えられることを強く体感しました。

平和に対する関心を持ち、共に行動を起こしてくれる仲間が世界中にいます。私たち若者世代が、次世代の担い手として、自分にとっての平和を探求し、将来どのような平和が築かれた世界の実現を求めるのか考えることは平和文化の構築の第一歩です。そして、高いインターネットやSNSの活用能力を活かし、そのコミュニティを広げていくことで、平和文化を築くことが可能であると考察します。



私は広島で生まれ育った若者として、ヒロシマの歴史を学び続けることで平和について模索し、また平和を希求するコミュニティを更に広げていくための働きかけを行っていきます。

●戦争は、気付かぬうちに忍び寄り、小さな争いからやがて周囲を巻きこみ、関係のない人々の日常を一変させます。昨今の国際情勢で、私たちはそのことを強く感じたはずですが、戦争や核兵器を改めて否定したことでしょう。しかし、「平和」に対する障壁は、戦争だけではありません。直接的、構造的、文化的な暴力が引き起こす貧困問題、人権問題、環境問題、労働問題や経済問題、政治問題や国際安全保障問題など、私たち人類が抱える問題は、数多く存在します。そのため、私たちの世界や日常や生活は、暴力やそれに起因した諸問題で成り立っているようにも錯覚してしまいます。

だからこそ、戦争の対義語としての平和ではなく、広義の平和に対して意識を持ち、それを人類共通の目標として、捉えなければなりません。そして、その目標の達成につながるようなプログラムに参加したり、平和的行動を起こしたりする必要があります。更には、私たちの周囲の人々に、その目標に向かうように、「過去」と「現在」を伝えていく使命があります。そして、彼らに対し、私たち人類共通の目標の達成に向け、動機づけし、鼓舞し、ともに励まなければなりません。

若い世代が平和について学ぶことは、重要なことです。私たち若者は皆、将来の担い手です。だからこそ、すべての人々にとって、より良い世界を作るために、過去の過ちを振り返り、現在を正しい視点から見なければなりません。私たちは、未来を正しく創造するための「行き先」を選択する「現在」において、「過去」を繰り返さない「未来」に導かなければなりません。

広島で生まれ育ち、青少年国際平和未来会議に継続して携わっている者として、そして、地球規模の問題が取り沙汰される今日に、平和を希求する若者の一人として、私は、「ヒロシマ」について、世界中に発信していきます。そして、私と共通の目標をもつ若者たちと、各々の所属する小さな共同体を巻き込みながら、「平和」に対し、使命感をもって、学び、対話し、広く行動していくことをここに誓います。

